



2025 9.30～10.1

### 研修概要 (生物分野)

**再生の一本道**

伊豆大島ミュージアム  
～ジオノス～

伊豆大島の  
植生・歴史・文化  
を学ぶ

こもれびトンネル いつか森になる道  
植生の一次遷移の過程を歩いて観察

日本で唯一  
“砂漠”がつく

**裏砂漠**

パッチ調査  
(右側参照)

～事後学習～  
大島高校の先生から話を伺う  
日本離島センターの方からのご講義  
などの活動を実施

離島センターの方に  
いただいた資料

### 一次遷移のパッチ調査で見られた植物

一次遷移・・・新しい島や溶岩で覆われた地面の植生の変化

パッチ調査・・・異なる遷移段階が混在する地で見られた植物の種類や生息地の大きさの関連を調査



- ・遷移段階の“草原”にあたる植生を調査
- ・どのパッチでも**種子の風散布**により**繁茂するススキやイタドリ**が見られた
- ・50cm程度のパッチよりも1～10mのパッチの方がチガヤ等の多様な種類の植物が生息

### ＜＜伊豆大島の植生回復＞＞

植生回復...何らかの要因(人為的な要因、自然災害など)で破壊された植生を復元すること

火山の噴火によって  
栄養の乏しい土地に

#### 【伊豆大島の環境保護の基本方針】

- ①自然の遷移に委ねる
- ②適切な維持管理を行う
- ③資源の価値を広める

- ・自然に頼った植生回復は完全に回復するまで長い年月(約120年)がかかる
- ・現在の森林が失われるスピードに到底追いつかない(世界全体で年平均470万ヘクタール減少)

⇒**人為的な植生回復が必要**

パイオニア種  
パッチを作る

#### 【北海道の駒ヶ岳の例】

1960年～63年、ブルドーザーによる整地や植栽、客土など  
→自然の状態でも60年かけても形成できなかった環境を

**2～30年で形成している**というデータもある

⇒**メリットは大きい!**

しかし...植生を早める⇒パイオニア種の減少  
地域独自の生態系システムの崩壊に繋がることも



パッチ拡大  
植物の種類も増える

#### 地域独自の植生保護・森林の回復

⇒**両立を目指す!**

森林減少対策の例：再植林(再造林)  
・伐採や災害などで森林が失われた土地に、再び木を植えて再生  
・CO<sub>2</sub>吸収、防災、生物多様性などの目的に応じて何をどこに植えるか設計  
⇒伊豆大島の植生回復を参考にすることで**人手不足や地域の植生保護**などの課題を解決できるのではないか  
例：パイオニア種を積極的に植える

人の手がほとんど  
加わずに再生

### まとめ

**火山災害から再生する伊豆大島の植生や人々の暮らしをモデルに、  
環境変化に対しての向き合い方**

そして

**自然災害と共生する社会の在り方  
を考えるべきである**